

見た目がかわいい

『まちで出会ったかわいいあのこ』

【まちの文字図鑑・番外編】

うおのめ とるこ、藤本 健太郎、松村 大輔・著

出版社：大福書林 ISBN：978-4-908465-18-5

『'70s&'80s サンリオのデザイン』

グラフィック社編集部・編 株式会社サンリオ・監修

出版社：グラフィック社 ISBN：978-4-7661-3189-5



『まちで出会ったかわいいあのこ』は、お店の看板などに描かれたかわいいものを紹介する本です。「おさげガール」や「コックさん」、「喫茶店のあのこ」といった分類でかわいい画像が並びますが、「食べられるどうぶつたち」（とんかつ屋さんなどの看板）というちょっと哀しい分類も。まちには、本当に様々な「かわいい」ものたちがあふれているんだな、と感じさせる図鑑です（著者の名前もかわいいな・・・）。

『サンリオのデザイン』は、まさに「日本のかわいい」の代表的存在であるサンリオの人気キャラクター紹介本です（他に『'90s～2010s』もあり）。キティちゃんから、たあ坊、けろけろろっぴまで、スター勢ぞろい！圧巻です。



『サンリオのデザイン』は、まさに「日本のかわいい」の代表的存在であるサンリオの人気キャラクター紹介本です（他に『'90s～2010s』もあり）。キティちゃんから、たあ坊、けろけろろっぴまで、スター勢ぞろい！圧巻です。

桶川市立中央図書館スタッフが選んだオススメ本「かわいい本」

レトロ！かわいい！

『いとしのレトロ玩具』井口 令菜・著

出版社：河出書房新社 ISBN：978-4-309-75053-8

いつも何気なく使っているボタン、実はこんなにいろいろあるんです。

『世界の美しいボタン』エリック・エペール・著

出版社：PIE International ISBN：978-4-7562-4595-3

こどもたちのまっすくな瞳が目に浮かび思わず笑顔に！

『こころのねっこ』

読売新聞生活部・監修

出版社：中央公論新社 ISBN：978-4-12-005603-1

古生物が現代に生きていたら、という空想をかわいい挿絵で紹介しています。

『古生物出現！空想トラベルガイド』

土屋 健・著

出版社：早川書房 ISBN：978-4-15-340002-3

飛んでくる時の手がとてもかわいいです。

『飛び猫』五十嵐 健太・写真撮影

出版社：KADOKAWA ISBN：978-4-04-731731-4

テーマに沿った本を図書館に蔵書があるものから選んでみました。図書館を是非ご利用ください



OKEGAWA hon プラス+とは

OKEGAWA hon プラス+ イベントスペースでは、OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）が主催して博物館、大学、出版社等と連携し、桶川の市民サービス向上のため、子ども向けから大人向けまで幅広い世代を対象とした学びのサポートをしています。

OKEGAWA hon プラス+でのイベントの予定についてはこちらをご覧ください▶



おけがわマイン 3F

〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2

OKEGAWA hon プラス+

☎ 048-786-6353 桶川市立中央図書館

発行者：OKEGAWA hon プラス+ 運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）



OKEGAWA hon プラス+ 通信

No. 25

不定期発行



テーマは “かわいい” をあれこれ考える本特集

今回は「“かわいい”をあれこれ考える本特集」です。

2023年度、OKEGAWA hon プラス+では「見つけた！埼玉のかわいい」

というテーマで連続講座・展示企画を行っており、今号は連動した読書案内となっています。

“かわいい”ものを並べてみると気が付くのですが、

私たちは実にいろいろなものに対してそう感じているようです。心がぱっと明るくなる、“かわいい！”ものたちについて、じっくり考えてみませんか。

冒頭には“かわいい”研究の第一人者でおられる大阪大学大学院人間科学研究科教授・入野 宏先生から寄稿文を頂きました。

寄稿文

自分の「かわいい」をとりもどそう

大阪大学教授(実験心理学)入野 宏

「かわいい」っていったい何でしょうか？ 赤ちゃんやペットなどの誰もが納得する「かわいい」もあれば、「これってかわいいの？」と首をかしげたくくなるような「かわいい」もあります。

「キモかわいい」や「ダサかわいい」といった反意語を組み合わせた言葉が登場したのは

「かわいい」のちから

実験で探るその心理

入野 宏 著

出版社：化学同人 ISBN：978-4-7598-1681-5

「かわいい」のちから

実験で探るその心理

入野 宏 著

「かわいい」ってなんだろう。

- かわいい形や色ってどんなもの？
- かわいいの感じ方は年齢や性別で変わる？
- キモいとキモかわいい何が違うの？
- kawaiiは国際語？
- かわいいもので英語になる？
- かわいいものには近づきたくない？
- かわいいは大切なもの？

DOJIX SEXUDO

・坂田図書館に蔵書があります

1990年代後半です。2005年ごろからは「ゆるかわいい」や「大人かわいい」といった複合語が「かわいい」の種類を表現するようになります。このように「かわいい」の意味は拡大し細分化していきました。

現在は、新しい複合語はあまり作られなくなり、ポップカルチャーとしてのkawaiiブームも落ち着いてきました。コロナ禍で「おうち時間」が注目されるようになり、多様な個性を認め合う社会に移行しつつある今こそ、それぞれの人が等身大の「かわいい」をとりもどすときです。

今回の特集で取り上げられる本をきっかけに、いろいろなものに対して「これは自分にとってかわいいの？」と問いかけてみてください。何をかわいいと思うかは人それぞれですが、かわいいと感じる気持ちは一緒です。自分の「かわいい」をしっかりと味わうことが、やさしさとゆとりの回復につながります。

主人公がかわいい

『悦ちゃん』 獅子文六・著 出版社：筑摩書房（ちくま文庫・刊） ISBN:978-448-043309-1



戦前の昭和11年に新聞に連載された、ずいぶん昔の小説なのですが、近年でもNHKでドラマ化されるなど、不思議と古臭さを感じず、今でも十分違和感なく楽しめる物語です。

お母さんが早く亡くなり、お父さんの碌さんと二人で、貧しいながらも仲良く暮らしている10歳の少女、悦ちゃん。碌さんが新しい奥さんを貰うことになり……。

そこから悦ちゃんの大人顔負けの大活躍が始まるのですが、何より主人公の悦ちゃんが、おませで、お転婆で、キュート！とにかくかわいいんです。

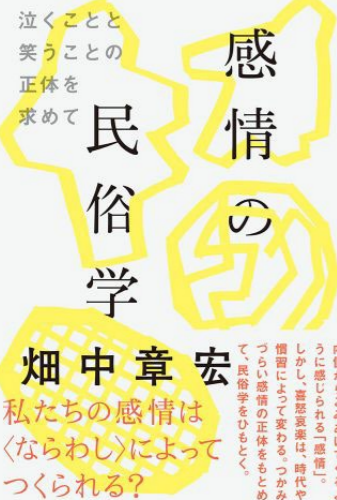
是非、この本を開いて、悦ちゃんに会いに行きませんか！悦ちゃんが、きっとあなたの心を元気してくれますよ。

・埼玉福祉会刊の大型活字本が橘川図書館に蔵書があります

エモって「いとをかし」のことだったんだ！

『感情の民俗学 泣くことと笑うことの正体を求めて』

畑中章宏・著 出版社：イーストプレス ISBN:978-4-7816-2246-0



SNS時代の今、だれかの投稿に対して「いいね」と意思表示するボタンがありますが、このボタンの意味は「かわいいね」という心の動きであるのではないかということがこの本には書かれています。「かわいい」はもともと「顔はゆい」から来ていて、中世の用法では「不憫な」という意味で使われていたのだとか。「かわいい」の言葉のもつ多様性を考えるための様々な説のほかにも、泣くことや笑うこと、ウソをつくことなど、誰にとっても興味深い話題が、主に民俗学的な見地から繙かれています。感情はどこにあるものなのか、その正体は一体何であるのかを考察している本書には、新しい発見と納得の再確認が溢れています。

・坂田図書館に蔵書があります

かわいい二人

『亜土のおしゃれ料理』

水森 亜土・著 出版社：筑摩書房（ちくま文庫・刊） ISBN:978-4-480-43902-4

『おちゃめ力宣言します！』

いろいろな悩みや不安もハッピーに解決！

田村 セツコ・著 出版社：河出書房新社 ISBN:978-4-309-02884-2



水森亜土さんと田村セツコさんの共通点は、お二人ともかわいいイラストを描かれること、そしてご本人がとてもかわいい方である、ということです。

紹介の亜土さんの本は、もちろん初心者向けの料理本としても読めるのですが、そのイラストと共に、何しろ亜土さんのかわいいキャラクターが全開で、ワクワクしちゃう！まさに「キャッホー」で(亜土さんの言葉もかわいいのだ) おすすめだー！もう一冊のセツコさんの本



もタイトル通り「おちゃめ力」全開！こちらは、ちょっとお悩み相談的な内容になっており、失敗しちゃったり、孤独を感じて落ち込んだ時に、「おちゃめ力」がどんなに役に立つかを、とても分かりやすく教えてくれます。どちらの本も、お二人のかわいいキャラクターが、読者の心をほんわか温めます。そうそう、もう一つ共通点が！お二人とも「日本のかわいい」の象徴であるサンリオの仕事がされていたのです。さすがです！

慎ましすぎるその用途もかわいい

『いやげ物』

みうらじゅん・著 出版社：筑摩書房（ちくま文庫・刊） ISBN:978-4-480-42090-9



「マイブーム」や「ゆるキャラ」などの造語の生みの親であるみうらじゅんさんの著作には、独特なネーミングがたっぷり詰まっています。これも造語である『いやげ物』というタイトルの本書には、全国各地の観光地で、みうらじゅんさんの琴線に触れ買い集められた置物などのお土産コレクションが、オールカラーで掲載されています。

私のお気に入りには「2穴オヤジ」と名付けられたシリーズ。とぼけ顔で愛らしいオヤジさんのキャラクターがスコップをもっていて、ペンを立てるための穴を掘っている風の置物です。このオヤジさんは「高尾山」「善光寺」「博多」などの立て看板とともに、全国各地のお土産屋さんに登場しているようで、どんな土地でも肅々と穴を掘っている姿がとてもかわいいのです。いくつもの旅行先で、同じオヤジさんを見かけてしまったらなんだか顔がほころんでしまいそうです。